

美術科・生活造形デザインコースにプロダクトデザイン分野が新設



プロダクトデザインの授業では、私たちの生活を支え彩る、家電、家具、ステーションリー、玩具などの製品を生み出すプロダクトデザイナーに必要な感性と技術の基本能力を学びプロダクトデザイナーとしての資質を身につけます。具体的には、枠組みにとらわれない自由なアイデアの発想力、そのアイデアを視覚化するスケッチ力、コンピュータを活用した表現力、構造・機能・素材を活かした造形力、

実物大の精巧なモデル制作技術、アイデアの魅力を的確に伝えるプレゼンテーション能力などです。

制作工房や3Dプリンタなど充実した設備を活用したものづくりを通して「デザインの楽しさ」を発見して欲しいと思います。

4年制大学卒業と同等の学士号が取得可能な2年制認定専攻科が始動して3年目の平成21年度は、2期目の修了生を送り出しました。演奏のビデオ撮り、あるいはレポート作成(理論コース)を入念に準備し、10月に申請。12月には、実技は東京で面接試験、初となる理論は福岡で筆記試験を受けました。2月下旬には、審査を申請した学生の元へ次々と合格通知が届き、17名が学士号を取得しました。

今年度の結果を受け、来年度も音楽科は教職員一丸となって、学生の教育に取り組んでいきます。

学士号を17名取得



▲音楽科コンサートシリーズより



ニュージーランド語学研修、無事帰国



▲クライストチャーチの街かど

国際文化学科では、この春より、提携校であるニュージーランドのクライストチャーチ工科大学での海外語学実習を始めました。2月20日から3月21日までの日程で、国際文化・情報コミュニケーション合わせて計9名の学生が参加しました。以下は学生の実況レポートです。



クライストチャーチ工科大学では、いろんなことを学んでいます。午前中に、ほかの国の人々とともに英語で意見交換するほか、ニュージーランドやマオリの文化についても学びました。午後からは、主に校外に出て市内の様子を見て回りました。クライストチャーチは、歴史のある建物が多く、見る者を飽きさせません。市内中心部には観光客も無料で乗れるバスが走っており、とても便利な町です。また、所々に広い公園があり、多くの人々がつろいで穏やかな時間が流れていました。

(国際文化学科 柴田 賢幸)

「芸文短大地域活動フォーラム」開催

1月29日、コンパルホールで「芸文短大地域活動フォーラム」を開催しました。今回のフォーラムでは、ナラティブ能力プログラムの担当教員である吉良伸一教授と高橋雅也講師より、今後3年間の取り組みについての説明と本学学生による活動発表を行いました。活動を通して知ったことや感じたこと、悩んだことや伝えたいことなどを思い思いに発表しました。総評として学外よりお招きした評価委員の方々から忌憚のないご意見をたくさんいただきましたので、今後の課題としてさらなる取り組みの充実と情報発信に努めていきます。



▲大人数を前にした発表は緊張、でも充実

学長コラム

中山 欽吾

<テーマ> 私たちにもできる地球温暖化対策



似顔絵/石丸 裕美

「地球温暖化」という言葉は、やはり言葉のように聞き慣れたものになりましたが、その詳しい中身を知っていますか？温暖化の原因は空気中の温室効果ガスの増加に起因するといわれています。なかでも炭酸ガスの排出量は桁違いに多いので、太陽熱を蓄積して気温の上昇につながる主犯とされています。炭酸ガスはものを燃やせば出てくるし、自動車社会は大量の炭酸ガスを含む排気を生みます。このように人間の生産活動や生活によって、大気中の炭酸ガスが蓄積され続けると、いつか両極の氷が溶けて海面が上昇したり、生活環境の悪化が人間の生活限界を超える日が来るというのです。ですから、将来起こってくる悲劇を防ぐためには、環境の悪化を食い止める努力をもっと加速して、地球環境のバランスを保つ「持続可能な開発 Sustainable Development」を行うことが必要になります。そのためには、私たち一人ひとりができる範囲で努力することが全体としての成果につながると考えられます。皆さんの身の回りでも、簡単に実行できる方法がたくさん

あるのですが、お気づきですか。えっ、「もうやっている」ですって？さすがは芸短生です。ところで、何をやっているのですか？参考のために簡単に整理してみましょう。持続可能な開発の目指す方向は「循環型社会」です。不要品は捨てられ、大部分が燃やされて炭酸ガスの排出につながります。できるだけ燃やさずに循環させようという考え方で、Reduce(リデュース:ゴミを減らす)、Reuse(リユース:繰り返し利用)、Recycle(リサイクル:資源の回収)の頭文字を取って、3Rといわれるようになりました。「Re-」とは「再度」という意味の接頭語ですが、最近ではRepair(リペア:修理)、Refine(リファイン:分別)、Reform(リフォーム:作り直す)などを加えることもあります。ところで、私が自動車を使わずに、歩いたり自転車で走り回るのも温暖化対策ですか？もちろん、その通りですが、どちらかという健康対策ですかね、何れにせよ一石二鳥の対策です。みんなの努力を集めると、大きな力になることをお忘れなく。

<連載>

芸術と文化の都市めぐり

第3回 マカオ(中国)

マカオは、1999年までポルトガルに統治されてきました。16世紀、多くのポルトガル商人が東アジアの海に来航し、やがて1557年、ポルトガル人は、広州(広東)に通じる珠江に臨む小さな半島での居住を許されます。ここを足がかりにしてポルトガル人は東南アジアや日本との交易活動を活発に行いますが、とりわけマカオ・長崎間の交易は、中国の絹と日本の銀を取引し、ポルトガル人にとっての「ドル箱」ルートとして繁栄します。同時に、キリスト教布教の基地にもなり、宣教師たちはここから日本へ旅立ちました。鎖国によって多くの日本人キリシタンが移り住み、フロイス『日本史』の草稿が保管されていたのもこの街です。日本と中国、東南アジア、ポルトガルといった多文化交流の記憶を宿すマカオ歴史地区は、世界遺産に認定されています。

(国際文化学科 准教授 晴谷 憲洋)

「葡式(ポルトガル風)杏仁餅」という文字が目立つ店先



聖パウロ天主堂跡へと続く町並み



▲マカオの象徴「聖パウロ天主堂(大三巴牌坊)」現在はファサードのみ